

## 「助けて」と言える人は、強い人

教頭 三浦 美也子

令和5年が終わろうとしています。「多様性の時代」「共生の時代」と言われて、早幾年。コロナ禍を乗り越え、世界もまた一歩進もうとしていると感じます。

さて、これからの社会で、子どもたちが自立して、自分らしく生きていくにはどうしていけばいいのでしょうか。

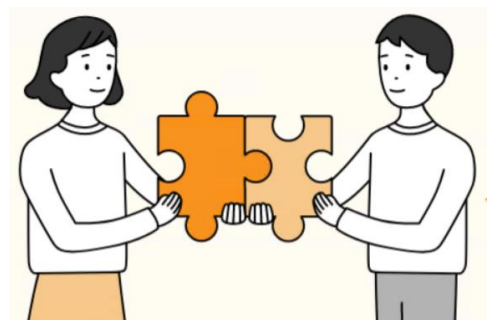
「自立」とは、自分のことは全部自分でやって、他人に迷惑をかけないことだと多くの人が思っています。私もそう教わってきた気がします。しかし、どうもそうではないようです。「自分のことは自分です。」「人に迷惑を掛けるようなことをしてはいけません。」……これ自体は間違っていないです。でも捉え方によっては「人を頼ることは良くないことだ。」「自分一人でやらないことはいけないことだ。」という誤った考え方になりかねません。

実際、大人の社会でも、誰もが人を頼りながら生活しています。職場でも分からないことがあれば、得意な人に尋ねたり、「ちょっと手伝って」と協力してもらったりして働いています。そう考えると、人に支援や依頼をすることは当然のことで、「助けて」と言える力は社会での重要なスキルなのではと思います。

皆様もよくご存じの「のび太くん」。漫画の中で、いつも「助けて～。ドラえもん！」と泣きついている姿を思い浮かべますね。でも、その「のび太くん」をよく見ると、できなくて困っていることを「助けて～」ということと他者の力を借り、自分なりになんとかしようとしています。失敗しても何度も挑戦します。原作者の故藤子・F・不二雄氏は「のび太のよいところは、反省し、いつまでもよい人間になろうと努力するところだ」と言っています。

うまくいかないとき、苦戦しているとき、落ち込んでいるとき、自分のことが嫌になったとき、弱い部分を人に見せる力をもつこと、誰にでも得意なこと、不得意なことがあり、困ったら人に頼って「力を貸して」と言える力をもつことが、本当の「自立」なのではないでしょうか。

困ったら人に頼ってなんとかする、人に頼られたらそれに応じる、互いに適切に依存していくのが「共生する」ということなのだと思います。まずは、学級が、学校が「共生」できる場となるように頑張ります。



## 子どもの活動の様子 ～月小祭り 12月1日(金)～

### 【オープニング】

はじめのことばや1,2年生のダンス、スピードパスの抽選等、オープニングからおおいに盛り上がり  
ました。



月湯小学校 HP QR コード 随時更新中



### 【学年の出店】

各学年、創意工夫を凝らしたお店を出店していました。保育園児の皆さんも来校して、祭りの出店を  
楽しんでいました。

